

◆日程 2017年7月29日(土)～8月2日(水)

◆メンバー L：岡村

前日、高速バスで新宿から扇沢まで移動。予約は満席だったのに席はガラガラ。予報が雨模様なのでキャンセルが多いのだろう。新宿 23:15 に出発し扇沢 5:30 着(切符販売 6:50)

**7月29日(土) 天候：曇り時々雨**

室堂で雨。雨具を着て歩き始める。一ノ越まで渋滞。浄土山への分岐からは人が減る。ザラ峠までに雪渓をいくつか渡る。雪渓の中をジグザグに下りていくところもあった。獅子岳以外はピークを通らない。雨は止む。

ザラ峠は佐々成政が雪の中を越えたというが、ちょっと無理でないか。エリア・マップには「歴史とロマンの峠」と。鋸崎山にも埋蔵金伝説があって「歴史とロマンの山」とある。ああ、ロマンってそういうことか。雨の中、木道を通って五色ヶ原キャンプ場に到着して行動を終える。1日中ガスの中。「黒部の太陽」は拝めず。夕方少し青空。

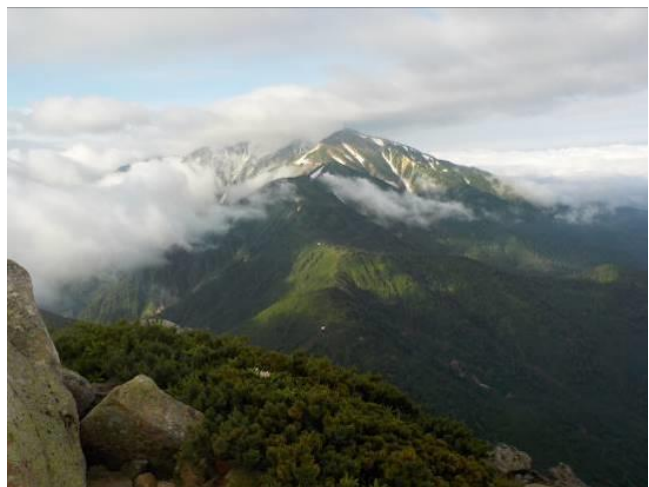
CT:7:30 扇沢(始発)－9:00/9:22 室堂－10:12 一ノ越－10:55 浄土山分岐－12:34 獅子ヶ岳－13:37 ザラ峠－14:17 山荘とテン場の分岐－14:30 五色ヶ原キャンプ場

**7月30日(日) 天候：曇時々雨か晴**

鳶山を過ぎ、ガスのハイマツ帯を進む。雷鳥に遭遇。いきなり足元に丸々したのが飛び出してきたので、猫かと思った。越中沢岳付近で晴れ間が出て、「夏山が始まるか」と期待したが、一瞬だった。それでもヌクイ谷らしき沢の源頭から黒部湖までの全貌、スゴ乗越小屋、薬師岳が見えた。越中沢岳からスゴ乗越小屋は近いようで遠い。アップダウンが続いた。小屋付近は湿地で木道があり、水芭蕉が咲き、蛙か何かの卵があった。

薬師岳への長い登りが始まる。まず頂上付近に池がある間山を過ぎる。北薬師岳は何の道標もないが、たぶんこれだと見当を付ける。その先、完全にガスに巻かれる。巨石のゴロゴロした小ピークをいくつか越えても薬師岳に着かない。「ああ、疲れた。さっきのは本当に北薬師岳だったのか」と疑い始めた頃、薬師岳に着いた。お堂がある。展望はない。

太郎兵衛平に向けて下る。景色一変し、赤茶色の砂礫の下り坂をジグザグに進む。薬師岳山荘を過ぎ、薬師平の木道を歩き、沢沿いの急な下りを下って、太郎兵衛平に着いた。薬師岳は思った以上にでかい山だった。重装備でこの行程は、今の私の精一杯だった。



越中沢岳からみた薬師岳

CT：テント 4:00－五色ヶ原山荘 4:15－鳶山 4:50－越中沢岳 6:45

－スゴの頭 8:24－スゴの頭 9:10－スゴ乗越 9:10－スゴ乗越小屋

10:04/10:24—間山 11:47—薬師岳 15:00/15:08—薬師岳山荘 15:38  
—薬師平 16:10—太郎兵衛平 16:40

## 7月30日(月) 天候：晴れ

双六へのルートと別れ、薬師沢出合に下る。顔を洗い、熊鈴を付けた。カベツケヶ原の木道を進む。なんて気持ちがいいんだろう。薬師沢小屋に着く。奥ノ廊下を渡る吊り端はスリル満点。本当に景色が美しい。快晴だ。雲ノ平まではきつい登り。苔むした丸っこい石が濡れて光り、滑る。ようやく水平な木道に出るが、木道が途切れ、またきつい登りになる。その次の木道からは、安心していい。



すばらしい展望の中を歩く。水晶、黒部五郎、薬師、鷲羽、ワリモ岳(頂上部が特徴的)が見える。行く手の赤牛岳らしき山も見えた。雲ノ平山荘でゆっくりビールを飲んだ。山荘から双耳峰が2つ見えるが、左の大きい黒いのが水晶岳だ。右は赤岳だと思う。小屋の人に読売新道の状況を聞く。「倒木が数本散見されるが通行に支障なし」とのことだった。

テント場からは祖父ヶ岳(みな「じいがたけ」と読む)と黒部五郎が見える。水場で頭を洗った。濡れたものを干して昼寝。虫が多い。人も多い。北アルプスの交差点だ。

CT：テント 5:00—薬師沢出合 6:00—薬師沢小屋 7:34—アラスカ庭園 10:00  
—雲ノ平山荘 10:57—雲ノ平キャンプ場 12:40

## 8月1日(火) 天候：曇のち雨

暗闇の雲ノ平の木道を進む。不気味だ。祖父ヶ岳の登りに入る。頂上直下で雪渓を渡る。その先は急にハイマツ帯を抜け、広い場所に出る。暗く少し道を見失う。頂上では薄明りの中、槍ヶ岳などのシルエットが見えた。ヘッドランプが不要になるのは4時半以降。

明るくなっていい気分で岩苔乗越まで下る。雲はあるが高く、遠くまで見渡せる。登り返すワリモ北分岐へのルートが正面に見え、右にワリモ、鷲羽、左に水晶が見えた。分岐から水晶小屋も起伏少なく、水晶岳までは岩稜という感じで楽しめる。頂上は2つあるが、三角点がない方が高いようだ。野口五郎岳と、これから行く赤牛岳が見える。

気を引き締めて赤牛岳に向かう。思ったより道は整備されている。左下に赤い屋根が見え、どこだろうと考え、高天原と気づいた。高天原への分岐となる温泉沢の頭を越える頃には少し



ガスって来た。足元の砂礫が今まで白っぽかったのが、赤茶色になった。荒涼とした雰囲気は火星を歩いているようだ。ガスの中、赤い砂礫上のルートを注意して辿る。ケルンが多くて助かった。使命感に駆られて、私もケルンを追加した。ピークがうすぼんやりと見え、「あれが赤牛岳か」と思うと、ピークを巻いて通過してしまう。それが何度も続き、雨風が強くなった頃、赤牛岳に着いた。景色はなく印象に残らない。

頂上では寒かった。まずいと思って、少し下り、風の弱いところで雨具の下に着込んだ。頂上を過ぎるとガラリと雰囲気が変わり、ハイマツも出てきて、赤茶色の砂礫の上にグレーの巨岩がゴロゴロするようになった。それらは鳳凰三山のオベリスクのようで、美しかった。ルートは大抵、「オベリスクにつっこんで、それを乗り越えろ」と指示した。

いきなり樹林帯に入る。そこで完全にアルペンムードは終わり。雨風は強まった。雨で木の根が滑る。少しのぬかるみと思って足をつっこむと、くるぶしまで沈んだ。眼鏡が曇るので拭う。滑りつつ、木の根を越え、トランス状態みたいになって延々と下り、ようやく奥黒部ヒュッテに着いた。雨上がる。

ヒュッテでは小屋泊の人の後の18時以降なら、テント泊の人も風呂に入っていいということで、入った(500円)。最高だった。明日の平ノ渡の船の始発は6時20分。小屋の主に始発に乗ろうと思うと伝えたら、「一度足を滑らせたもう浮かんでこない場所がある。明るくなってからがいい」と教わった。「黒部をなめるな」と言われている感じがして、従うことにした。それから有用な雑談をしたので箇条書きしておく。

- ①熊は夜行性で朝5時を過ぎて見かけることはない
- ②ここの熊は食料が豊富なのでおとなしい
- ③例外的に昼間でもいる場所は、小屋のすぐ下の橋、室堂への道、ガルベ乗り場の3カ所
- ④平ノ渡は関西電力がダムを造った代償で運営しているからタダ
- ⑤関電の委託で船を運航しているのは平ノ小屋の主
- ⑥この人はギターも釣りもうまい天才。つりキチ三平のモデル
- ⑦船が6時のあと10時まで便がないのは小屋の朝飯の片づけで忙しいからではないか等々。楽しい人だった。

CT: テント 3:15-祖父ヶ岳 4:35-岩苔乗越 5:20-水晶小屋 6:20-水晶岳 7:10  
-温泉沢の頭 8:15-赤牛岳 10:28-奥黒部ヒュッテ 15:15

## 8月2日(水) 天候: 曇のち雨

寝坊した。起きたら明るかった。快晴。朝飯を食べて出発する。それでも余裕だ。いきなり丸太を組んだ橋を渡る。欄干が片方にしかない。足下は東沢谷の激流だ。そのあとも丸太を組んだ橋や、水平歩道や、階段等が次々出てくる。さながらアスレチックだ。川の轟音が常に聞こえている。明るくなってからにしてよかったと思う。川幅が広がり、流れが緩くなった。川の音が聞こえなくなる。しばらくすると平ノ渡場に着いた。

時間どおり船が来て乗船。船からの景色は絶景だ。大きな山容の山が見え、「薬師でもない



丸太を組んだ橋



平の渡船

し・・・」とよく見たら立山だった。「帰ってきたなあ」と実感した。下船すると、どこかの漁師町にでも来たような気になる。

その後、黒部ダム駅までもなかなか大変で、気を抜けない。入り江も岬も縫うように進むからで、起伏も大きい。途中の川原でラーメンを食べる。水場は豊富。水筒要らずだ。舗装路は「ロジックよろん」の後である。ようやく、5日ぶりに黒部ダム駅に帰ってきた。ビールで祝杯して、トローリーバスで扇沢に下った。

CT：テント 7:20－平ノ渡場 9:25/10:20－ロジックよろん 13:15  
－黒部ダム駅 14:25

(記：岡村)